



21

21 藤井邸のかや府

樹 高：15m 幹周り：3m
 樹 齢：不明 指定年：昭和48年3月30日
 所在地：堺市津久野3丁2073
 交 通：JR 阪和線「津久野」駅下車、北へ徒歩300m

主屋の裏側で、壁を押し倒しそうな勢いで元気に育っています。樹高15mにも及ぶこのカヤの枝は家の屋根を覆っているかのようです。秋になるとカヤの実をたくさん落としてくれます。子供のころに食べた味、今ではなんとなく懐かしい味になってしまったかもしれませんね。

カヤ

カヤはイチイ科カヤ属の常緑高木で、九州、四国、本州中南部と朝鮮半島に分布します。

樹皮は灰褐色で縦に裂ける性質があります。葉は扁平な線形で先が鋭く尖っており、枝にらせん状につきます。開花期は初夏で、翌年の秋ごろ薄緑色の果皮に包まれた実が熟します。

成長が遅く長寿なため材は緻密で耐久性があり、赤みがかった芯材はいい艶が出るため彫刻や細工物に使われるとともに最高級の碁盤や将棋盤として利用されています。奈良時代には高級官僚の持つ笏(しゃく)が



22

22 長野神社のかやのき府

樹 高：17m 幹周り：4m
 樹 齢：不明 指定年：昭和47年3月31日
 所在地：河内長野市長野町8-19
 交 通：近鉄・南海「河内長野」駅下車、南西へ徒歩250m

長野神社の境内には、クス・ケヤキ・ヤマモモ・マキ・イチョウなどの大木が緑豊かで静かな空間を作り出しています。神社の外から見るとひとつの別世界のような感じです。このカヤノキは雌株ですから、秋にその実を探すのもいいかもしれません。

カヤは針葉樹のうち特に進化したものとして植物学的に価値の高いものであること、わが国にのみ自生する樹木であること、府下最大のカヤであることなどが指定理由です。

カヤ材だったことから一位がイチイの語源になったという説もあります。

強い弾力を持つ主枝は古代には弓に加工されました。三叉対生の側枝は真ん中の1本を切り落として両脇の2本を輪状に曲げ、アユ釣りなどに使うカヤダモという高級な手綱(たも)の柄になります。同様の使用例は弥生時代までさかのぼることができます。

種子はあくをぬいて食用にもされますが、漢方では「榧実(ひじつ)」という虫下しの薬になります。



23 出灰素盞鳴神社のカツラいずりはすさのおじんじや 府

樹 高：28.7m 幹周り：3.5m

樹 齢： 指定年：平成14年1月29日

所在地：高槻市大字出灰小字堂の前

交 通：JR「高槻」駅から、高槻市営バス「榎田校前」
方面行き「出灰」下車、北へ徒歩300m

神社は高槻市の北部の流谷川左岸に位置します。境内入口の鳥居横にカツラはあり、大中小10本の幹があつまり、株立状に並びたちます。川沿いの湿気の多い環境で、ヒトの背の高さまで樹皮にコケが生えます。当地はかつて京都府域に属し、市町村合併する昭和33年まで京都府指定の天然記念物でした。

カツラ

カツラは日本各地、朝鮮半島、中国に分布するカツラ科カツラ属の落葉高木で、株立ちすることが多く、葉はハート形の円形で秋には薄紅色から黄色に紅葉します。雌雄別株で、初夏に葉の根元に小さな赤い花を咲かせます。

漢字の桂は中国では「月にある高い理想を現す木」で、モクセイがこれにあたりますが、日本や朝鮮半島では古くから混同されています。カツラの紅葉が甘い香りを放つことから、取り違えてこの字をあてたのか

もしれません。万葉集には、月に住む桂男を詠んだという「目には見て手にはとらへぬ月の内の桂のごとき妹をいかにせむ」という歌が残されていますが、平安時代以降には「桂男の君」は在原業平に代表される美男へのほめ言葉になっています。

材は香りがよく耐久性にも優れていることから、建築材や家具に用いられ、碁盤や将棋盤もカツラ材が最高級とされています。また、香りのよさと汚れに強いことから街路樹として植えられることも多くなっています。



24

24 蔭涼寺のぎんもくせい

樹 高：3m 枝張り：約9.7m
 樹 齢：江戸から寛文 指定年：昭和45年2月20日
 所在地：和泉市尾井町337
 交 通：JR 阪和線「和泉府中」駅から、南海バス
 「鶴山団地」行き「鶴山台4丁目」下車、南へ徒歩800m

ほぼ同形のこんもりしたギンモクセイが二株あり、その間をとお堂に向います。寺内にはキンモクセイも植えられており、こんもりとした小山のようです。秋に訪れると、あたり一面に花の香りが漂っています。これらの木々



ギンモクセイ



キンモクセイ

は寛文年間（1661～1672年）、寺を開創した時に植えられたと言い伝えられており、それが正しければ300年以上生き続けていることとなります。

ギンモクセイ

ギンモクセイはモクセイ科モクセイ目の常緑小高木で、東北南部から九州に分布します。キンモクセイはギンモクセイの変種で、単にモクセイというときはギンモクセイを指します。中国原産で中国名は「桂花」です。

雌雄異株で、樹皮は灰褐色で縦に亀裂が生じますが、この様子がサイの皮膚に似ていることが木犀の名の由来だともいわれます。葉は鈍い艶のある先のとがった卵形で細かい鋸歯があり、秋に白い小さな花をたくさん咲かせますが、香りはキンモクセイほど強くありません。翌

年の春黒っぽい実が熟しますが、植栽されているもののが大半が雄木であるため見かけることはまれです。

花の香りがよいことからキンモクセイ同様公園の植栽や庭木によく使われますが、巨樹と呼ぶまでに大きく育ったものは全国的に見ても多くありません。

漢方では花を乾燥させたものが「桂花」という生薬で、お茶とブレンドしたりします。おもに香りを楽しみますが、低血圧の改善や健胃効果も認められています。



クスノキの実

25 薫蓋クスくんがい

樹 高：24.4m 幹周り：11.12m
樹 齢：1000年 指定年：昭和13年5月30日
所在地：門真市三ツ島 1374
交 通：地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南」下車、北東へ
徒歩800m

この大クスはその名のとおり、三島神社を守る傘のように枝を広げています。遠目にもすぐにそれとわかる大きさですが、近づくと圧倒的な存在感を感じます。

ご神木でもあるこのクスを守るための氏子さんたちの集

まりが「薫蓋樟保存会」です。年に一度の総会は、神社の清掃から始まり、クスの管理や保護の方法を樹木医から教えてもらいます。

総会のあとの食事会では「この木には大きな穴があって、子どもの頃はよくここでかくれんぼした。」「白蛇も住んでるんやて」と、変わらない巨樹への思いがロク々に語られます。人々が心を寄せる場所、巨樹に体现された永遠性がここにあります。「薫蓋樟保存会」の長年の功績は平成23(2011年)に知事表彰に輝きました。

クスノキ

クスノキは主に本州の関東地方以西、九州、四国に分布するクスノキ科の常緑高木です。大きく枝が伸び、こんもりと丸くなるのが特徴です。樹皮は、焦茶色で、縦に多くの亀裂が入り、荒々しい感じがします。葉は明るい緑色で、葉の表面に蠟質の膜層をもっているため、それが太陽の光を反射し輝いて見えます。葉の周囲はやや波打っていますが、鋸歯（ぎざぎざ）はありません。春の5～6月にかけて、薄い黄緑色の花を咲かせます。秋には黒く丸い実がなります。

クスは神社やお寺の境内によく見られるほか、環境の変化に強く、明るいい色合いのために、街路樹や公園の樹木としても好んで使われており、私たちに馴染み深い樹木です。

クスはまた、大変大きく育つ樹木としても知られています。その理由としていくつかのことが考えられています。まず、クスの木そのものが長生きをする木だ

ということです。長寿であるがゆえに長い年月をかけてどんどん大きくなっていきます。人はそのクスを見て、「楠学問」「楠長者」という言葉で表現しました。日々気づかなくとも少しずつ積み重ねたもの、毎日毎日積み上げたものは驚くばかりのものとなるというたえです。またクスの木がもつ香り（樟脳）は他の植物の発芽や成長を抑えるという働きがあります。枝は四方に張り出して伸びボリュームがあるので、樹下には陽光が差し込みにくく暗くなります。そのために他の樹木が発芽しにくくなるというのも巨樹になる理由の一つと考えられています。

大阪府内の天然記念物で最も多いのはクスで、神社やお寺の境内などで長年に渡って大切に守られてきたクスには、幹回り3m以上、高さ20m以上、枝の広がり直径30m以上のものもあり、クスは巨樹巨木の代表と言えます。